

信濃川水系学識者会議 第5回上流部会 議事要旨

開催日時：平成25年8月8日（木）14:30～16:30

場 所：J A長野県ビル 12A会議室

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

①今後の進め方について

②信濃川水系河川整備計画（原案）に対するご意見について

③信濃川水系河川整備計画案（案）及び附図について

④信濃川水系河川整備計画案（案）上流部の費用対効果について

4. 閉会

○議事

①今後の進め方について

➤ 意義なし

②信濃川水系河川整備計画（原案）に対するご意見について

（A委員）

➤ 治水対策の比較において、既設ダムの容量活用の案には、その他の対策も組み合わされているという理解でよいか。

（事務局）

➤ 現時点の整備計画においては、既設ダムの有効活用による新たな洪水調節の確保、堤防整備、河道掘削による組み合わせにより整備計画で定める目標を達成していくこととし、その他の洪水調節施設は引き続き検討して参ります。

（A委員）

➤ 例えば、ダムのかさ上げ等により施設を大きくした場合に洪水調節の面では良いが、施設単体のリスクが大きくなることや内水氾濫の関係性など、どこまで安全となるのか、きちんとした検討をしていただきたい。

（事務局）

今後、詳細な調査の中で具体的な検討を行って参ります。

（A委員）

➤ ハード面の整備が間に合わなくてもソフトの運用次第では洪水被害は軽減できるという意見に対し、整備計画案（案）にどのように反映されているのか。

（事務局）

➤ ハザードマップの他、水防避難に資する適切な情報提供、防災教育への支援を行う旨を記載している。

(A委員)

- ハザードマップの作成において破堤危険度評価を取り入れることにより、地域に有用な情報提供が出来るのではないかと。また、ソフト対策の備えとして、防災教育等への支援や積極的な取り組みと地域へのアピールをしていただきたい。

(部会長)

- 治水対策の比較においては、“×〇◎の3段階で評価している”などの注釈を付けた方がよい。

③信濃川水系河川整備計画案（案）及び附図について

(事務局)

- 自然環境に係わる説明の中で、上流部だけ外来種が増加しているような表現で問題はないのか、という意見が中流部会でも出されたので、この場でご議論いただきたい。

(B委員)

- 上中下流で外来種が増加しているならば、誤解のない表現にした方がよい。

(A委員)

- 自然環境に係る上中下流の説明後に、水系全体の外来種の傾向をまとめる方法もある。

(事務局)

- 表現を工夫して参ります。

(C委員)

- 県指定の中野市栗林遺跡に係る文化財の保全はどう考えているか。
- 旧河道等は治水の歴史として重要であるが今後どのように対応するのか。

(事務局)

- 県指定の中野市栗林遺跡に係る関係機関との協議・調整は、現在実施しているところである。
- 河道を切り替えた部分の整備は整備計画のメニューに位置付けていないが、今後の対応は引き続き検討して参ります。

(D委員)

- 長野県はXRRAINの空白地帯である。下流への洪水伝搬の面からも上流部の情報を正確に把握することが大事なので、早急に整備されるよう要望したい。

(事務局)

- ご意見は関係機関に伝えて参ります。

(E委員)

- これまでに出された意見、要望が反映された整備計画になっている。それ以外のメニューは基本的に30年以降となるが、期間にとらわれず柔軟に対応していただきたい。
- 立ヶ花や戸狩狭窄部の開削は、大河津分水路との関係で上下流バランスを考えた段階的整備が必要であるが、これに直接影響を与えない堤防の整備や質的強化、流域全体に効果がある既設ダムの有効活用などの事業は前倒しして実施していただきたい。
- 整備計画の概要版を作成し、住民に分かりやすく周知していただきたい。

(D委員)

- 附図に記載されている専門用語の概念や説明も含め、30年間のメニューを一般向けに分かりやすいよう、概要版としてまとめていただきたい。

(事務局)

- 整備計画は、策定後に状況の変化や新たな知見、技術の進捗等が生じた場合には、適宜見直しを行って参ります。
- 早期に治水安全度を高めるよう、事業進捗にも努力して参ります。
- 概要版の作成は検討して参ります。

④信濃川水系河川整備計画案（案）上流部の費用対効果について

(A委員)

- 想定浸水図では事業実施前後の違いが明確でない。どのエリアに効果があるのか。
- 想定浸水深の区分を細分化するなどの工夫ができないか。

(事務局)

- 想定浸水深の区分は治水経済調査マニュアル（案）で規定されている被害率を参考にしている。

(F委員)

- 総便益と事業実施前後の総被害額の差に開きがあり、特に当面の整備ではその開きが大きく、整備計画の全体事業では殆ど同じであるが、それぞれ算定基準が違うのか。一般の方にも分かりやすいよう、説明を工夫された方がよい。

(C委員)

- 想定浸水深図を公表する際は、住民に誤解を与えないよう示すべきである。

(G委員)

- 想定浸水深図は一般の方に見せにくい資料であるが、理解をしていただくことが重要。
- 地図が市町村合併前の名前となっている。

(事務局)

- 資料の示し方を工夫して参ります。

—以 上—